

IR

第57期第2四半期
営業のご報告

2020年4月1日～9月30日





株式会社 あじか 代表取締役社長 足利 恵一

株主のみなさまへ

減収減益の決算をご報告申しあげます

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第57期第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）の営業の概況および決算などについてご報告申し上げます。

ご高承のとおり、当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い経済活動が大きく抑制された結果、個人消費や企業収益が急速に悪化するなど極めて厳しい状況で推移いたしました。加えて、国外におきましても、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気減速懸念や米中貿易摩擦の長期化により、金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、特に外食・仕出し・給食業態の需要が大きく減少したことに加え、緊急事態宣言が解除された2020年6月以降も個人消費は緩やかな回復にとどまっており、厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは『強い国内事業の実現』と『新事業の確立』をテーマとした第11次中期経営計画の最終年度をスタートさせ、「営業基盤の拡充と市場開拓」、「商品の研究開発と技術開発およびマーケティング力の強化」、「全社供給体制の強化と効率化」、「品質管理の強化」、「利益構造の改善」、「経営品質・企業価値の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、業務用食品分野ではスーパーマーケットを中心とした中食業態への可能な限りの提案・販売促進活動を展開し、売上高の減少を最小限にとどめる努力を行ってまいりました。しかしながら、外食・仕出し・給食業態に加え、輸出・海外子会社の売上が大きく低下したことや、繁忙期である盆の需要減少が大きく響いたほか、自然災害による一時的な需要減少などもあり、前

年同四半期実績を下回る結果となりました。

生産面におきましては、自社製造製品の売上高減少によって固定費率が高止まりしましたが、当社主要原材料価格が安定して推移したことに加え、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率改善などの原価低減活動を行ったことが功を奏し、製造原価率は前年同四半期以下となりました。

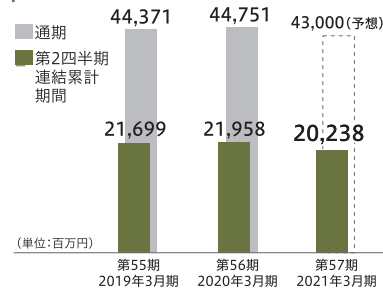
ヘルスフード事業におきましては、菊芋とブレンドした新製品の菊芋ごぼう茶の売れ行きが好調なことに加え、テレビCMや、紙媒体、電子媒体などで販売促進・広告活動を積極的に行った結果、定期顧客数が増加し、通信販売の売上は前年同四半期を上回る結果となりました。ドラッグストアなどでの市販品の売上も、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行ったことに加え、2020年9月に機能性表示食品としてリニューアルしたごぼう茶の導入効果も加わり、前年同四半期を上回ることができました。

以上の結果より、当第2四半期連結累計期間の売上高は、20,238百万円（前年同四半期比7.8%減少）となり、前年同四半期実績を下回りました。利益面につきましては、徹底的な諸経費抑制に努めてまいりましたが、売上高の低下に伴う粗利益の減少分を吸収するには至らず、営業損失は、20百万円（前年同四半期は営業利益151百万円）となりました。経常損失は、支払利息やデリバティブの時価評価損などにより、5百万円（前年同四半期は経常利益149百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は、25百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益70百万円）となりました。

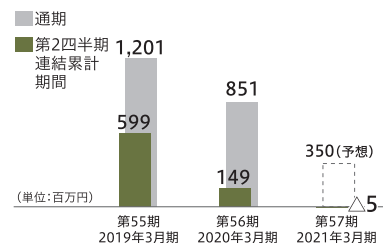
■ 通期業績予想

通期の業績予想につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響や業績に大きな影響を与える第3四半期以降の受注状況、新製品の導入効果、冬場の原材料価格の動向、為替、株価、原油価格など、先行き不透明で流動的な要素も多いため、2020年8月3日に公表いたしました業績予想を変更しておりません。

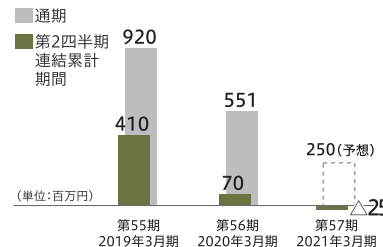
売上高 20,238百万円



経常利益(△損失) △5百万円



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益(△純損失) △25百万円



注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■第2四半期 連結貸借対照表

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2020年3月31日現在	2020年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	10,945	※1 10,794
現金及び預金	1,909	1,943
受取手形及び売掛金	4,905	4,952
商品及び製品	2,407	2,267
仕掛品	34	41
原材料及び貯蔵品	1,331	1,241
その他	377	362
貸倒引当金	△ 20	△ 14
固定資産	13,161	※2 13,010
有形固定資産	11,079	10,790
建物及び構築物(純額)	4,069	3,958
機械装置及び運搬具(純額)	2,553	2,384
土地	3,789	3,789
リース資産(純額)	117	162
その他(純額)	548	496
無形固定資産	331	350
ソフトウェア	243	264
リース資産	19	25
のれん	65	57
その他	2	2
投資その他の資産	1,750	1,868
投資有価証券	629	736
長期前払費用	1	0
繰延税金資産	107	79
退職給付に係る資産	196	221
その他	893	909
貸倒引当金	△ 77	△ 79
資産合計	24,106	23,804

※1

流動資産は、前連結会計年度末に比べ150百万円減少し、10,794百万円となりました。
主な増減要因は、受取手形及び売掛金の増加47百万円、現金及び預金の増加34百万円、商品及び製品の減少139百万円、原材料及び貯蔵品の減少90百万円であります。

※2

固定資産は、前連結会計年度末に比べ151百万円減少し、13,010百万円となりました。
これは、投資その他の資産において、株価の上昇に伴い投資有価証券が増加したものの、減価償却の進行に伴い有形固定資産が減少したためであります。

■第2四半期 連結損益計算書

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2020年3月31日現在	2020年9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	9,702	※3 9,453
支払手形及び買掛金	2,623	2,716
短期借入金	5,127	4,817
リース債務	58	73
未払法人税等	114	72
賞与引当金	328	403
役員賞与引当金	41	23
その他	1,409	1,347
固定負債	1,751	※4 1,812
長期借入金	1,399	1,473
長期未払金	180	130
リース債務	95	134
資産除去債務	53	53
繰延税金負債	21	18
その他	1	1
負債合計	11,454	11,265
(純資産の部)		
株主資本	12,443	12,303
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	10,306	10,167
自己株式	△ 64	△ 64
その他の包括利益累計額	208	234
その他有価証券評価差額金	83	155
繰延ヘッジ損益	5	△ 2
為替換算調整勘定	119	81
純資産合計	12,652	12,538
負債純資産合計	24,106	23,804

※3

流動負債は、前連結会計年度末に比べ249百万円減少し、9,453百万円となりました。
主な増減要因は、支払手形及び買掛金の増加92百万円、短期借入金の減少309百万円であります。

※4

固定負債は、前連結会計年度末に比べ60百万円増加し、1,812百万円となりました。
主な増減要因は、政策的な借入による長期借入金の増加74百万円、リース債務の増加39百万円、長期未払金の減少50百万円です。なお、当第2四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ235百万円減少し、6,291百万円となっております。

■第2四半期 連結損益計算書

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2019年4月1日～ 2019年9月30日	2020年4月1日～ 2020年9月30日
売上高	21,958	20,238
売上原価	16,147	14,902
売上総利益	5,811	5,336
販売費及び一般管理費	5,659	5,356
営業利益又は営業損失(△)	151	※5 △ 20
営業外収益	91	87
営業外費用	94	71
経常利益又は経常損失(△)	149	△ 5
特別利益	3	15
特別損失	2	1
税金等調整前四半期純利益	150	9
法人税等	80	34
四半期純利益又は四半期純損失(△)	70	※6 △ 25
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	70	△ 25

■第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2019年4月1日～ 2019年9月30日	2020年4月1日～ 2020年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,478	※7 618
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 415	※8 △ 107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 719	※9 △ 403
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	332	97
現金及び現金同等物の期首残高	1,444	1,765
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,776	1,862

※5 当社主要原材料価格が安定して推移したことに加え、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率改善などの原価低減活動を行うことで、製造原価率は前年同四半期以下となりました。また、新型コロナウイルス感染症の影響による出張の自粛や経費執行の抑制などにより、販売費は大きく減少いたしました。しかしながら、売上高の低下に伴う粗利益の減少分を吸収するには至らず、営業損失は、20百万円となりました。

※6 支払利息やデリバティブの時価評価損などの計上により、経常損失は5百万円(前年同四半期比は経常利益149百万円)となり、特別損失、法人税等を計上した結果、最終的な親会社株主に帰属する四半期純損失は、25百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益70百万円)となりました。

※7 営業活動の結果得られた資金は、618百万円(前年同四半期比58.2%減少)となりました。これは、減価償却費547百万円、売上債権・たな卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での資金獲得257百万円、賞与引当金の増加額75百万円が主な内容となっております。

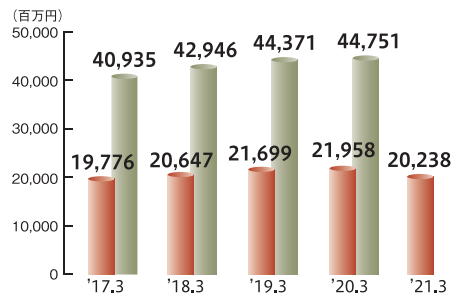
※8 投資活動の結果使用した資金は、107百万円(前年同四半期比74.2%減少)となりました。これは、生産設備の増強投資・メンテナンス投資が主な内容となっております。なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきまして不透明な状態が続いていることから、当第2四半期連結累計期間におきましては投資を抑制しております。

※9 財務活動の結果使用した資金は、403百万円(前年同四半期比43.9%減少)となりました。これは、短期・長期借入金の返済による支出235百万円(純額)、配当金の支払額113百万円が主な内容となっております。

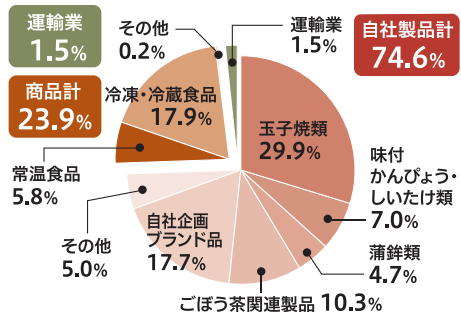
(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結業績の推移

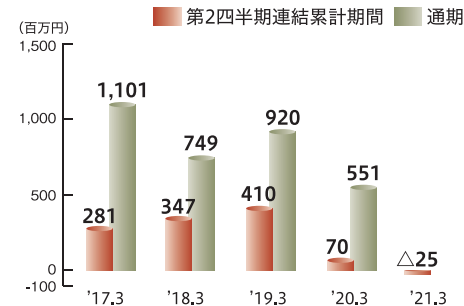
売上高



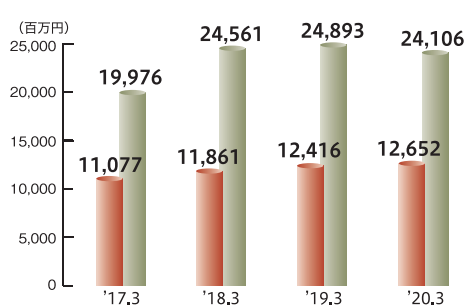
売上構成比('21年3月期 第2四半期連結累計期間)



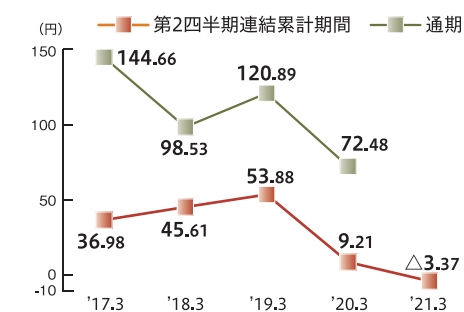
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益(純損失△)



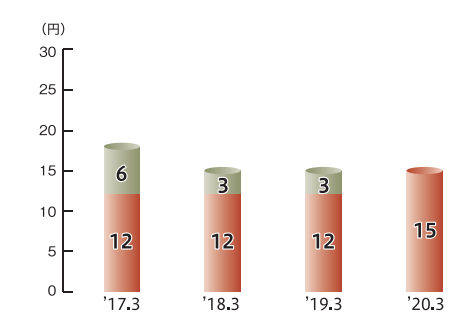
純資産・総資産



1株当たり当期(四半期)純利益(純損失△)



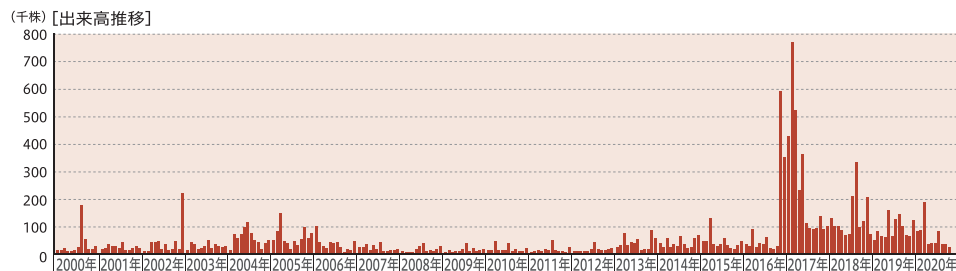
1株当たり配当金



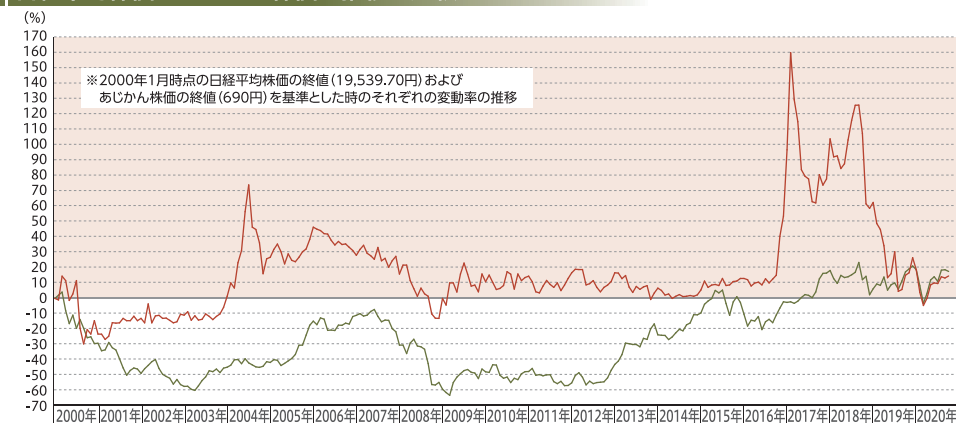
注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株価・出来高の推移 ※東証2部市場

証券コード：2907



日経平均株価とあじかん株価の推移の比較



IR Information

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 (定時株主総会) 3月31日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日(当期中間配当は未実施)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所 東証2部
- 公告の方法 電子公告
(公告掲載URL) <https://www.ahjikan.co.jp/>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更など各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

会社概要

- 商 号 株式会社あじかん (AHJIKAN CO.,LTD.)
- 設立年月日 1965年3月19日(創業 1962年)
- 主要な事業内容 鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の製造、
販売、および卸売、農産物の生産、販売、ならびに運輸業



- 小誌についてのご意見は『膳』P.18の「読者からのお便り」までお寄せください。●